

# 瓢湖

(ひょうこ)

位置：北緯37度50分、東経139度14分／標高：8.6m／面積：24ha／湿地のタイプ：貯水池、ため池／保護の制度：国指定鳥獣保護区特別保護地区／所在地：新潟県阿賀野市／登録：2008年10月／国際登録基準：2、6／EAAFPネットワーク参加地

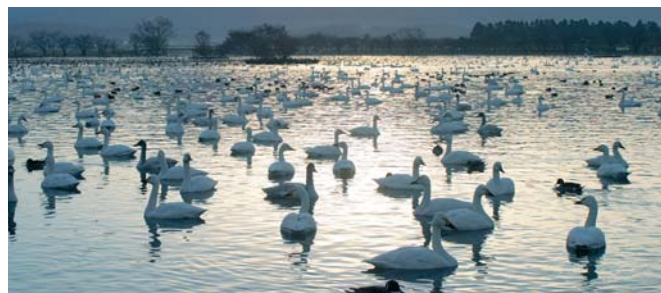
湿地のタイプ：貯水池、ため池



ハスの花咲く夏の瓢湖



ヒシの実の採取風景



冬の瓢湖

## 湿地の概要：

新潟平野の北東部から内陸に寄った、福島県から流れ下る阿賀野川が蛇行する平坦な低湿地帯は、見渡す限りの水田である。瓢湖は、その穀倉地帯の中心部、阿賀野市(旧水原町)にある小さな池である。

江戸時代初めの1639年につくられた灌漑用のため池で、当時は南側にもうひとつ池があって瓢筆の形をしていたが、一部が埋められ、いまは、その面影はない。

1991年に東新池、2000年にさくら池、あやめ池が新たに造成されて四つの池となり、全体として約30ヘクタールの瓢湖水きん公園となった。現在は、すでに灌漑用水の役割は終えている。

水深は平均0.7m、最大1.2mと浅い。周辺の川から取水しているが、ほとんど流れのない静水池で、オニビシやハスなどが繁茂し、岸边にはヨシやマコモが生えている。

池畔には桜が植えられているが、堤が低く平坦なため、どこからでも池全体を眺めることができる。

## 瓢湖は「白鳥の湖」：

瓢湖は江戸時代から殺生禁制の池で、明治以降も慣例的に狩猟を禁じてきたため、水鳥の楽園となった。現在も毎年、コハクチョウなどハクチョウ類約6000羽、オナガガモ、マガモ、コガモ、ホシハジロなどガンカモ類3万羽以上が採餌の場、ねぐらとしている。

とくにハクチョウは、1954年に初めて給餌に成功し、「白鳥の湖」として瓢湖の名を全国に広め、野鳥保護運動に大きな影響を与えた。住民参加の保全活動が、地元の小学校の子どもから老人クラブまで盛んで、「白鳥の里(白鳥資料館)」などの施設がある。

こうした歴史的な経緯、地元住民の保護努力によって瓢湖では、ハクチョウなどの水鳥のようすを目の前で観察することができる。

## 新潟平野の湿地ネットワーク：

新潟平野には瓢湖のほか佐潟(ラムサール条約湿地)、鳥屋野潟、福島潟など、穀倉地帯の餌場に囲まれた水鳥にとって

安全なねぐらが点在している。

【コハクチョウ】瓢湖のハクチョウは90%がコハクチョウで、10月中旬～3月中旬に滞在し、瓢湖や周辺水田を採餌とねぐらに利用する。毎朝6時半～9時ごろ飛び立ち、周辺の田んぼで落穂などを食べ、午後3時ごろもどる。幼鳥をつれ家族単位で行動する。給餌に頼るのは主に傷病鳥などの一部。夜行性のカモ類は逆に、昼間を瓢湖ですごす。

## ●関係自治体

阿賀野市役所 Tel: 0250-62-2510

